

注意報

長崎県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予察 注意報第4号

普通期水稻 トビイロウンカ

1. 発生地域(対象地域) 県内全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 9月前期の巡回調査(89圃場)の結果、発生圃場率が73.0%(平年 54.5%)と平年より高かった(図1)。株当たり虫数は0.5頭(平年 0.7頭)と平年並であったが(図2)、増殖率の高い短翅雌成虫の発生が43圃場で見られ、株当たり虫数は0.2頭と多く、株当たり虫数1頭以上の圃場も確認した。短翅雌成虫は8月下旬から9月上旬にかけて多く見られており、今後、9月中下旬以降に第3世代幼虫の発生が多くなると予想され、坪枯れの発生が懸念される。特に10月中旬以降に収穫する中晩生品種については、主要飛来(図3)の第3世代の増加による坪枯れの発生に注意が必要である。
- (2) 9月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、株当たり成虫数は7.0頭(平年 0.4頭)、株当たり幼虫数は13.2頭(平年 3.8頭)、寄生株率は74.5%(平年 48.1%)であった。また、短翅雌成虫の株当たり虫数は3.2頭であった。
- (3) 気象予報(福岡管区气象台、平成29年9月7日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

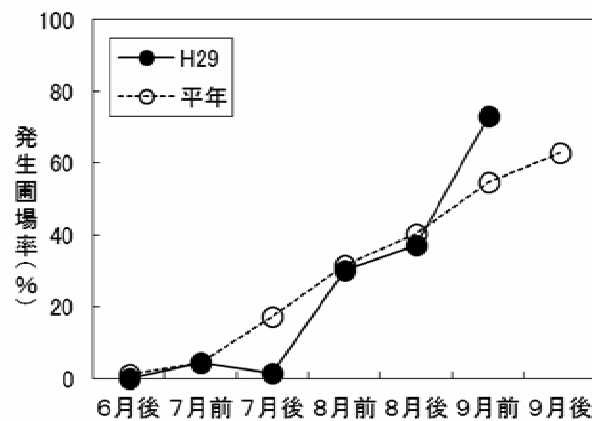


図1 トビイロウンカの発生圃場率の推移

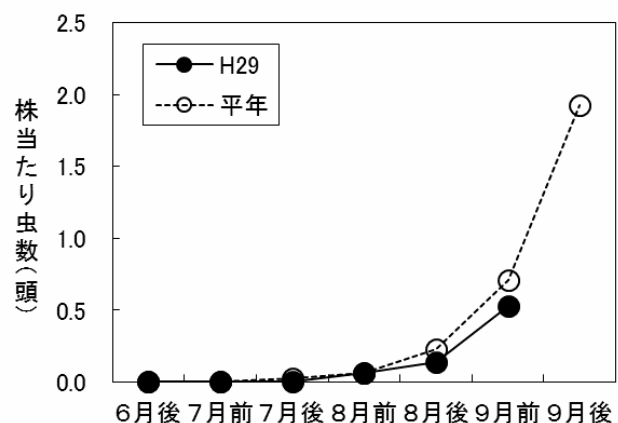


図2 トビイロウンカの株当たり虫数の推移

4. 防除対策

- (1) 出穂期以降の防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、9月中旬に株当たり成虫・老齢幼虫を5頭以上認めた場合には早急に防除する。
- (2) 防除に当たっては、本虫の発生量は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので、圃場の見回

りを徹底して、圃場全体の発生状況の把握に努める。また、今後の発生時期は図3のとおりであるが、地域や圃場により発生状況が異なることがあるので、それぞれの圃場における発生状況を把握する。

- (3) 多発生圃場で水稻が収穫可能な時期に達している場合は、できるだけ早めに刈り取る。
 - (4) 本虫は株元に好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。
 - (5) 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。
-

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

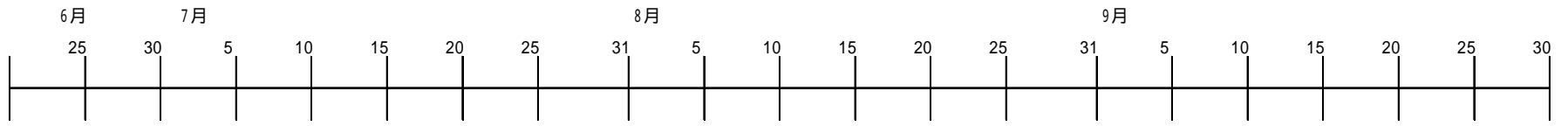
「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027



(図3) トビイロウンカの発生予測図(平成29年)



(飛来日)

7月8日 主要飛来波

成虫	卵	第一世代幼虫	成虫	卵	第二世代幼虫	成虫	卵	第三世代幼虫
----	---	--------	----	---	--------	----	---	--------

発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(9月10日まで実測値、11日以降は平年値)